

Book Review

臨床に活かせる コンポジットレジン修復

飯田真也 著



Reviewer

飯田吉郎 Yoshiro Iida

(愛知県・ナディアパークデンタルクリニック)

A4判, 96頁
カラー
定価 6,600円
(本体 6,000円+税 10%)
医歯薬出版刊



コンポジットレジン修復（以下、CR修復）はその工学的物性と接着技法の進化や、Minimal Interventionという治療コンセプトとの相性の良さにより、近年改めて存在感を高めてきている治療法である。特別な機器への大きな投資が必要なわけでもなく、とても導入が容易な治療法である反面、歯科医師の手仕事の極みのような治療法でもあるため、その技量や使用材料・器具の選択によって、治療結果や予後に大きな差が生じてしまう側面もある。

また、著者が書籍のなかで述べているように、CR修復は「アート（形態付与）&サイエンス（接着操作）」の両方の要素を必要とする治療法であるが、近年のSNSに多く投稿されているCR修復の術後写真を見ていると、アート部分だけが強調されすぎているような風潮を感じることもたしかである。

本書では、CR修復に関するアート（形態付与）とサイエンス（接着操作）

がバランス良く記載されており、機能的で美しいCR修復を達成するための著者の経験に基づいた充填手技はもちろんのこと、著者が重要視している確実な辺縁封鎖を達成するための手技も惜しみなく記載されている。

患者固有の歯冠形態をある程度自由度をもって復元でき、なおかつセメントを介さずに修復物の確実な辺縁封鎖を獲得できることが、CR修復の最大の利点であり醍醐味でもある。本書を読み進めトレーニングを積むことで、読者の皆さんもアートとサイエンスが両立したCR修復を、必要最低限のチェアタイムで達成することが可能となるであろう。

評者の私見であるが、この必要最低限のチェアタイムというのが、同治療法を日常臨床に取り入れていくためのキーワードである。術者の手技に依存するアートの要素が含まれるこの種の治療法は、時間をかければかけるほど良い結果が得られるのは当然であり、そうではなく短時間で良い結果を得る

ために、種々の症例に対して、いかに合理的でパターン化した術式をもっていかかが重要であると考えられる。その点、本書で解説されている充填材料の選択や充填方法はとてもシンプルかつ合理的であり、日常臨床に取り入れやすいものとなっている。

また、いざ実際にCR修復を行おうとすると、充填の手技そのものよりも、ラバーダム防湿の手技や隣接面へのマトリックスの挿入法などに苦戦することが多々ある。本書ではその点に関してとてもわかりやすく記載されており、臨床での疑問点が一気に解決される。

さらに、本書には日常臨床で遭遇する確率の高い典型的な症例と、その解決法が掲載されている。そのような症例に実際に対峙する際に、その都度読み返して治療に挑む「マニュアル」として、チェアサイドに置いておきたい一冊でもある。